

巻頭言	神奈川大学工学部教授 大熊 武司	2
「耐風設計研究」のあゆみ		5
はじめに	常務理事 鈴木 俊男	6
第1章 研究の変遷		7
1-1 送電鉄塔・架渉線の耐風設計		9
1-2 ギャロッピングの数値解析技術		12
コラム1：UHV 赤城実規模試験線		14
第2章 合理的な風荷重評価技術の確立に向けて		17
2-1 現在の設計手法の概要と合理化研究の方向性		19
2-2 風向別基本風速の評価		19
2-3 設計風速の評価		27
2-4 等価静的風荷重の評価		29
第3章 耐風設計に関する解析評価ツールの整備に向けて		37
3-1 3次元気流解析コード「L-WIND」		39
3-2 増速率の簡易評価ツール「k1-adviser」		44
3-3 ガスト応答解析コード		47
3-4 等価静的風荷重評価ツール		51
コラム2：やまじ風		55
第4章 観測・実験結果を設計に生かす		57
4-1 九州試験線・四国試験線における風および風応答観測		59
4-2 地形周りの気流場に関する風洞実験		65
4-3 架渉線の風応答に関する風洞実験・フィールド実験		70
コラム3：気象ドップラーレーダーを用いた風速場の測定		74
第5章 ギャロッピングのシミュレーション手法の開発と対策に向けて		75
5-1 シミュレーションコード「CAFSS」の概要		77
5-2 シミュレーションを実務に役立てる		84
コラム4：送電線の素線切れを解析する		86

第6章 今後の展開	89
6-1 当所における耐風設計研究	91
6-2 当所におけるギャロッピング研究	91
おわりに ===== 理事 我孫子研究所長 加藤 正進	93
引用文献・資料等	94

表紙絵：四国試験線における風および風応答観測風景